



加 監 発 第 5 4 号  
令 和 6 年 3 月 8 日

加 須 市 長 角 田 守 良 様  
加 須 市 議 会 議 長 小 坂 裕 様  
加 須 市 教 育 委 員 会 教 育 長 小 野 田 誠 様

加 須 市 監 査 委 員 秋 本 政 信

加 須 市 監 査 委 員 竹 内 政 雄

令和5年度定期監査の結果（学校監査）について（報告）

地方自治法第199条第4項の規定に基づき、及び加須市監査基準に準拠し、定期監査を執行したので、同条第9項の規定により、その結果を別添のとおり報告します。

# 令和5年度学校定期監査結果報告書

## 第1 加須市監査基準に準拠している旨

監査委員は、加須市監査基準（令和2年加須市監査委員告示第4号）に準拠して監査を行った。

## 第2 監査の種類

地方自治法第199条第4項の規定に基づく定期監査

## 第3 監査の対象学校

- (1) 加須小学校
- (2) 大越小学校
- (3) 花崎北小学校
- (4) 加須南小学校
- (5) 種足小学校
- (6) 大利根東小学校
- (7) 加須東中学校
- (8) 加須平成中学校

## 第4 監査の着眼点（評価項目）

市立の小学校及び中学校の事務に関して関係法令が遵守されているか、また、備品の管理やその他校長の権限に係る財務等に関する学校事務の執行が適正かつ効率的に行われているかに主眼を置き、監査を実施した。

## 第5 監査の期間

令和5年12月27日～令和6年3月8日

## 第6 監査の実施内容

令和5年度（1学期及び2学期）の学校経営状況や主要業務等に関する事務の執行状況等について必要な資料及び関係書類の提出を求め、監査委員が各学校を訪問し、関係職員からの説明を聴取するとともに、学校施設の現況を確認した。

## 第7 監査の結果

学校経営状況や財務等に関する学校事務の執行については、おおむね適正かつ効率的に運営されていることを確認した。

なお、本監査における学校の状況及び主な意見は次のとおりである。

## 1 総括的事項

学校経営に係る事業の管理については、各学校とも、加須市人づくり宣言をはじめ加須市人づくりプラン等を念頭に、学校規模、校風や児童・生徒、地域の実情等を把握された上で目指すべき学校像を定め、それらの実現に向けて各種取組事項を掲げた学校ランドデザインを明確に定めていた。

その経営・運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教職員間の情報の共有化が図られており、また、保護者や学校評議員をはじめ連携している地域の方々に対しても、共通理解を図りながら行われている。

なお、全体の学校経営・運営状況及び個別的事項は、次のとおりである。

## 2 学校経営・運営状況について

### (1) 組織について

校長・教頭を中心とした教職員の役割分担が明確に定められ、それに基づいた業務が行われており、責任体制も確立されている。

また、教職員の異動や新任教員の割合が高く、在校年数の短い学校もあるが、日ごろから教職員間の情報の共有化が図られるなど組織体制の強化に取り組まれている。

さらに、コロナ禍においても、常に児童・生徒の立場を第一に考え、新型コロナウイルスに感染させない中で思い出に残るイベント等を可能な限り実施していた。

なお、令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後も、感染対策に留意しながら事業の実施に努められていた。

### (2) 教職員の勤務時間について

教職員の平均在校時間について、中学校では部活動の朝練習を廃止するなどにより、以前に比べると在校時間は減少傾向になっているが、年度当初は新年度の準備作業等のため、特に主幹教諭や教頭の在校時間が長くなる傾向については、引き続き見受けられた。

全ての学校で、パソコンとICカードを利用した教職員の在校時間管理を行っていた。今後も適切に在校時間の管理を行うとともに、教職員の長時間勤務の改善に向け取り組まれない。

また、教育委員会も、各学校から提出された勤務状況の資料等を活用し、市内全体の勤務時間の傾向等の情報提供を行いながら、超過勤務の削減に向けた各学校への指導を行うなど、働き方改革の推進に努められたい。

### (3) 長期欠席・いじめ認知件数について

児童・生徒の長期欠席等の状況について、コロナ禍以前と比較して一部で増加傾向がみられた。一部の家庭では、積極的に学校に送り出さない状況もあるとのこと

であった。

長期的な対応が必要となるが、家庭との信頼関係の構築及び家庭教育に努め、児童・生徒の学校への復帰についての取組みを進められたい。

また、いじめ認知件数については、学校により差異はあるが、いずれも解消に向け対応済みであった。

今後はSNS等によるいじめも増加してくると思われることから、いじめの傾向の把握に努め、早期発見・早期解決に向けて取り組まれたい。

#### (4) 学力の現状と向上対策について

埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、改善傾向にあるとは思われるが、依然として県平均に比べ全体的に低い傾向がみられる。特に中学校の英語についてはその傾向が強いことから、学校での指導内容を見直すなど、さらに指導を強化されたい。

また、家庭学習を通して苦手な分野について繰り返し学習を行うなど、基礎学力の向上に努められたい。

#### (5) 外国籍の児童・生徒への支援について

両親の日本での就業などにより、日本語指導が必要となっている外国籍の児童・生徒が増加している状況が見られた。

今回の学校監査でも、各学校で日本語教室を実施し対応を行っていることが確認できたが、週1時間程度の指導が現状であった。

他の児童・生徒と一緒にいる通常授業も、友人関係やコミュニケーション能力を向上させるためにも必要なことから、そのバランスに注意しながら、一人一人の日本語レベルや学習能力などに応じた指導を行い、全ての児童・生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、日本語教室の充実・拡充を検討されたい。

#### (6) GIGAスクールの運用状況について

令和3年度から本格稼働し、3年度目となったこともあり、教職員全体の技能が向上してきているのが伺えたが、教科や教員により利用状況に多少の差はあるとのことであった。

また、加須市に異動してきた教員の中には、本市と違うシステムを使用していたため、当初は操作に戸惑う状況もあるため、ICTサポーターの活用や教職員間の研修を通じて、操作方法の確認や、より効果的な活用方法について情報共有を図られたい。

なお、多くの学校でタブレット端末の持ち帰りを実施し、家庭学習や宿題等に活用するとともに、各種アンケートをタブレット端末等を利用して行うことで、集計等が効率的に行え、業務改善につながっているとの話も聞くことができた。

タブレット端末の使用期間が伸びてきており、故障等の発生も見込まれるため、予備機を確保するなど、切れ目のない活用ができるよう取り組んでいただきたい。

今回の監査において、多くの学年で実際に授業中に使用しているところを視察してきたが、画面の小さなタブレット端末を利用した授業の増加、家庭でのゲーム機やスマートフォン等の使用時間の増加などもあるため、学期ごとに視力検査を行うなど、児童・生徒の視力の低下については注視していただきたい。

#### (7) 地域との連携について

学校応援団活動について、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、その活動に制限がみられたが、登下校の見守りなど児童・生徒の安全を確保する取組については引き続き全学校で行われていたほか、可能な範囲で体験授業等についても実施をしていた。

各学校とも新型コロナウイルスの影響により学校応援団の活動が減り、児童・生徒と触れ合う機会が減少していたため、今後は従来以上に地域との連携・交流を図っていただきたい。

なお、今のところ活動に大きな支障はないようだが、学校応援団等の高齢化等により登録人数が減少している学校も見られることから、新たな人材の発掘が望まれるところである。

※学校応援団：学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織のことで、平成17年度から埼玉県教育委員会が取り組み始め、平成28年度には埼玉県内全ての小・中学校で学校応援団が設置されている。

#### (8) 災害時の対応及び防災対策について

各学校とも災害別の危機管理マニュアルを整備し、様々な災害や不審者を想定した避難訓練が実施されている。今後も、災害時等に児童・生徒の命を守るため、継続的に工夫のある取組を実践されたい。

#### (9) 予算執行状況（歳出）について

配当された学校管理費については、令和5年12月末時点で50%から77%程度の執行率であった。

なお、各校とも1月の訪問時点では、3学期中に残りの予算執行の予定がほぼ決定しているとのことであったが、年度を通した計画的な執行に努められたい。

#### (10) その他学校経営において参考となる事項について

##### ・消耗品や燃料代等の高騰について

消耗品や燃料代等が高騰していることから、購入に際して優先順位を設けながら必要な物品の購入をされていた。

・樹木の剪定について

ほとんどの学校において、樹木の剪定費が不足しているとの話が聞かれた。

低木については学校応援団の協力により対応をしている学校も見られたが、管理の必要な樹木（特に高木）の多い学校では苦慮していた。

高木の管理については教育委員会で一括管理を行うこと等も含め、学校と教育委員会でよく確認・協議をし、適切な維持管理に努められたい。

### 3 各学校の個別的事項について

**加須小学校** 児童数396人（学級数12学級＋特別支援学級数5学級）

#### （1）学校概要等

・児童数は396人で、全学年2学級となっている。

#### （2）長期欠席及びいじめ認知件数について

・長期欠席者は18人となっているが、電話連絡や定期的な家庭訪問を行い、児童本人と保護者の現状把握に努めながら継続した支援を行っている。

また、スクールソーシャルワーカーと連携し、情報共有が行われていた。

・いじめ認知件数は2学期末時点で9件となっているが、生徒指導主任及び管理職、学年担当を中心に連携を取りながら解決に向け取り組んでいた。

児童のSNS利用など、職員又は保護者の目につかない場面でのトラブルも出てくることから、保護者への指導や指針についても検討をしていく必要があるとのことであった。

#### （3）学力の向上対策等について

・研究主題を「児童がわかる楽しさを実感できる算数科授業の工夫改善～ICTを活用した授業づくり～」とし、算数科における実践研修を行っていた。

・授業の流れを全学年で統一するとともに、高学年では自分のペースで学習ができるように習熟度別コース学習を取り入れていた。

#### （4）GIGAスクールの運用状況について

・ICTサポーターを中心に、全職員が活用できるようレベル別の研修を実施している。

・学年ごとに課題を策定し、全児童が6年間で情報活用能力を身に付けられるよう取り組んでいる。

・タブレット端末の故障は7件であった。

(5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長11人、学校応援団100人となっている。
- ・登下校時の見守りに加え、学習支援についても協力を得られている。
- ・学校応援団の高齢化が進んでいるため、今後の人材確保が課題とのことであった。

(6) 災害時の対応等について

- ・避難訓練や防犯教室などを年6回開催し、児童の資質能力の育成を行っていた。
- ・猛暑対策により、計画していた教育活動ができないこともあるとのことであった。

(7) 予算執行状況について

- ・配当された予算については計画的に執行している。
- ・南校舎及び西校舎の老朽化が進み、メンテナンス費用が増加しているとのことであった。

**大越小学校** 児童数52人（学級数5学級＋特別支援学級数1学級）

(1) 学校概要等

- ・児童数は52人で、市内最小の小学校であり、4・5学年で複式学級となっている。

(2) 長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は1人となっているが、校内特別委員会等で協議するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しながら取り組んでいた。
- ・児童数が少ないことから、人間関係の固定化やコミュニケーション能力の不足から、気持ちを伝えられず、小さなトラブルや躓きに強いストレスを感じやすい傾向があるとのことであった。
- ・いじめ認知件数は2学期末時点で0件であった。

(3) 学力の向上対策等について

- ・算数科を中心に学習指導の工夫改善を行い、校内研修を推進していた。
- ・課題として、困難さを抱える児童への学習支援や学力調査の効果的な活用についてあるとのことであった。

(4) GIGAスクールの運用状況について

- ・高学年では毎日活用されているが、1年生では週2日程度の活用と、学年による利用率の差はあるとのことであった。
- ・タブレット端末の毎日持ち帰りを目標に、家庭での活用についても推進していた。
- ・セキュリティで強固に守られているため、自分で守るということを体験できない状

況になっている。また、授業で使用したいYouTube等が見られないこともあるとのことであった。

- ・タブレット端末の故障は2件であった。

#### (5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長3人、学校応援団28人となっている。
- ・登下校時の見守りに加え、敷地内環境整備や教育活動補助についても協力を得られている。
- ・学校応援団の高齢化による世代交代が難しく、後任がなかなか見つからない状況とのことであった。

#### (6) 災害時の対応等について

- ・4、5年生で「防災」をテーマに総合的な学習の時間において学習するとともに、市の出前授業を活用して学習を行っている。
- ・ポケット版の対応マニュアルを作成し、すぐに確認できるようにしていた。
- ・猛暑対策により、携帯計測器で測定し、指数によって運動を制限しながら教育活動を行っているとのことであった。

#### (7) 予算執行状況について

- ・配当された予算については概ね計画的に執行している。
- ・燃料費の高騰などにより、予算が不足しているとのことであった。
- ・学校応援団の協力により樹木選定を実施することで、経費の削減ができていたとのことであった。

**花崎北小学校** 児童数253人（学級数9学級＋特別支援学級数2学級）

#### (1) 学校概要等

- ・児童数は253人で、1学年から3学年は1学級、4学年から6学年は2学級となっている。

#### (2) 長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は17人となっているが、家庭と協力し対応を行うとともに、スクールカウンセラーや各種関係機関と連携しながら、解消に向け取り組んでいる。
- ・いじめ認知件数は2学期末時点で3件となっているが、管理職の指導のもと生徒指導主任を中心に組織的な対応を行い、解決に向け取り組んでいた。  
なかよしアンケートを年3回実施し、気になる記述のあった児童から話を聞くようにしているとのことであった。



### (3) 学力の向上対策等について

- ・学力学習状況調査の結果を分析して、課題や今後の取り組みについて検討を行っている。
- ・家庭学習の手引きを配布することで、家庭学習の大切さについて家庭との連携を図っている。

### (4) G I G Aスクールの運用状況について

- ・算数などの授業で、児童がお互いに教え合い学び合う協働学習を実施している。
- ・インフルエンザによる学校閉鎖時にオンライン授業を実施するとともに、自宅療養が必要な児童には授業の配信を行っていた。
- ・3学期からは、3学年以上は毎日持ち帰りを行い、家庭学習や連絡事項の通知に活用をしている。
- ・普通教室にしかW i - F i 環境が無いため、体育等で使用できない状況があるとのことであった。
- ・タブレット端末の故障は1件であった。

### (5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長8人、学校応援団104人となっている。
- ・登下校時の見守りに加え、コロナ禍で止まっていた読み聞かせボランティアを再開し、児童の豊かな心の育成の一つになっているとのことであった。
- ・新たな人材発掘や高齢化、児童が学んだことを地域へどのように還元していくかが課題となっているとのことであった。

### (6) 災害時の対応等について

- ・定期的な避難訓練を実施することにより、初期動作や避難行動を身に付けることができていた。
- ・猛暑対策として、夏の間は体育授業の単元入れ替えや校外学習等の検討が必要になってきているとのことであった。

### (7) 予算執行状況について

- ・配当された予算については計画的に執行している。
- ・物品の値上がりに伴い、優先順位や購入数を精査して購入を行っていた。

**加須南小学校** 児童数177人（学級数7学級＋特別支援学級数2学級）

（1）学校概要等

- ・児童数は177人で、5学年は2学級、それ以外は1学級となっている。

（2）長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は4人となっているが、生徒指導推進委員会やケース会議を開催するとともに、電話連絡や家庭訪問で連絡を取るようにし、学校との繋がりが切れないよう配慮を行っていた。
- ・また、母国に帰国をしていた児童については、事前に学習内容等を知らせるなど、日本に戻ってからスムーズに復帰できるようにしていた。
- ・いじめ認知件数は2学期末時点で1件あったが、既に解決し1月末までの観察期間となっていた。

（3）学力の向上対策等について

- ・算数の授業においてチームティーチングを実施して、個に応じたきめ細かな指導を行うようにしていた。
- ・週3回、朝学習の時間を設け、計算や漢字の習得や個別指導による苦手意識の解消を図っていた。

（4）GIGAスクールの運用状況について

- ・校内ICT活用マニュアルを策定し実施をすることで、タブレット端末を丁寧に扱う意識を高めることができていた。
- ・研究授業でタブレット端末を活用し、教師、児童ともに活用の機会を増やすよう取り組んでいた。
- ・タブレット端末の紛失が1件あったが、2か月後に回収できていた。

（5）地域との連携について

- ・ふれあい推進長6人、学校応援団45人となっている。
- ・毎日数名のふれあい推進長が、校内の「みなみステーション」に滞在し、学校内外の環境整備と学習支援を中心に活動を行うことで、児童や教職員との交流が図られていた。
- ・学校応援団は、主に登下校時の見守り活動を行っているとのことであった。

（6）災害時の対応等について

- ・今まで実施していた避難訓練に加え、不審者対応の避難訓練を実施することで、自分の命は自分で守るという児童の意識を高めることができていた。
- ・来年度は猛暑対策のために、6月から9月の行事等を他の時期に変更する等につい

て検討しているとのことであった。

#### (7) 予算執行状況について

- ・ 配当された予算については計画的に執行している。
- ・ 年度途中からスクールサポートスタッフが配置されたことで、教員が行っていた印刷等を任せることができ、効率的に印刷等が行われるようになったことで、インク等の使用量削減が図られていた。また、教員の在校時間の短縮にもつながったとのことであった。

### **種足小学校** 児童数137人（学級数6学級＋特別支援学級数2学級）

#### (1) 学校概要等

- ・ 児童数は137人で、全学年1学級となっている。
- ・ 今年度の重点課題に、学力、学校行事、学校の働き方改革を掲げ、重点的に取り組んでいた。

#### (2) 長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・ 長期欠席者は1人（体調不良）となっているが、3日欠席が続いた場合には家庭訪問を実施し、家庭との連携を行ってきたことで改善傾向にあるとのことであった。
- ・ いじめ認知件数は2学期末時点で5件となっているが、児童支援委員会で情報共有を行うとともに、管理職が担任と共に保護者対応を行いながら解決に努めていた。
- ・ いじめの内容がSNS等に起因するものが見られるようになってきており、発見が遅れてしまう懸念があるため、家庭とも連携しながら早期発見できるよう取り組んでいく必要があるとのことであった。

#### (3) 学力の向上対策等について

- ・ 全校で指導の流れを統一して取り組むことで、児童が進級しても授業規律が共通のため、継続した指導が行われるようにしていた。  
また、司書教諭を中心として学校図書室だけでは不足しがちな図書資料を騎西図書館から定期的に借りることで、授業の充実が図られていた。
- ・ 家庭学習の習慣を確立し、学力の向上を図るため、自主学习ノートが5冊終わると自学自習賞を授与するという取り組みを行っていた。
- ・ 民間企業とのコレボレーション授業で、4学年を対象とした水の浄化実験を行っている。

#### (4) GIGAスクールの運用状況について

- ・ 日常的にタブレット端末の活用が図られているが、国語、算数、理科、社会等での

活用が特に多くなっている。

- ・効果的な活用方法を校内で共有するための研修を実施している。
- ・学年の発達状況に応じた持ち帰りを実施し、家庭での学習に活用をしている。特に夏休み期間中はドリルソフトに取り組むため、全学年での持ち帰りを実施していた。
- ・タブレット端末の故障は2件であった。

#### (5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長3人、学校応援団50人となっている。
- ・登下校時の見守りに加え、学習支援についても協力を得られている。
- ・平成国際大学陸上部の駅伝部員に協力を頂き、学校長距離走と一緒に走ってもらうことで、児童は駅伝部員の「速さ」を体験することができたとのことであった。
- ・学校だよりを、市の広報誌と一緒に配ってもらうことで、地域の方に学校の情報を知ってもらい、開かれた学校の実現の助けになっているとのことであった。

#### (6) 災害時の対応等について

- ・避難訓練や引き渡し訓練を実施するとともに、地元消防団と連携して放水訓練の見学を実施することで、自分の命は自分で守るという児童の意識を高める指導が行われていた。
- ・学校在学時間以外の児童の安否確認が課題となっており、スマートフォン等を活用した安否確認の実施についても研究が必要になっているとのことであった。

#### (7) 予算執行状況について

- ・配当された予算については計画的に執行している。
- ・燃料価格の高騰もあり、燃料費の確保が課題になっているとのことであった。

**大利根東小学校** 児童数204人（学級数6学級＋特別支援学級数2学級）

#### (1) 学校概要等

- ・児童数は204人で、全学年1学級となっている。

#### (2) 長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は3人となっているが、電話連絡や家庭訪問を行い継続した支援を行っている。

また、スクールカウンセラーと連携し、情報共有を行い、さらに生徒指導委員会で児童についての共通理解と共通指導を図っている。

家庭の考え方等により欠席が多くなる児童もいるが、連絡を密にしながら指導を行っていた。

- ・いじめ認知件数は2学期末時点で0件であった。

### (3) 学力の向上対策等について

- ・学力学習状況調査の結果を分析して、伸びの見られた学年・教科の取り組み方法等について共有を図っていた。
- ・ねらい、見通し、理由付け、まとめ、ふりかえりを重視した授業を実践し、知識の定着化を図っていた。
- ・漢字、計算、詩の暗唱、読書の取り組みにより、基礎基本が身につけてきているが、家庭の支援状況等に差があるため、個々の状況に合わせた指導を行っていく必要があるとのことであった。

### (4) G I G Aスクールの運用状況について

- ・I C Tサポーターを活用しながら、担任とのチームティーチングの実施や教材作成を行っている。
- ・感染症による欠席や学級閉鎖時にオンライン授業を実施することにより、児童の学習の場を保証することができていた。
- ・アンケートや学校評価等を端末での回答としたことで、回答や集計を迅速にすることができたとのことであった。
- ・タブレット端末の故障は0件であった。

### (5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長1人、学校応援団コーディネーター3人、学校応援団65人となっている。
- ・登下校時の見守りに加え、体験活動の充実をさせ、特色ある教育活動を実践することができたとのことであった。
- ・学校応援団の高齢化が進んでいるため、後継者の確保や保護者を巻き込んだ協力体制について検討していくことが課題となっている。

### (6) 災害時の対応等について

- ・避難訓練の事前指導及び事後指導において、加須市防災ノートを活用することで、自分の命は自分で守るという意識を育てることができている。
- ・夏期の活動時には暑さ指数を確認し、周知を行っていた。また、熱中症アラートが出された場合は、すぐに放送するなど対応を行っていた。

### (7) 予算執行状況について

- ・配当された予算については計画的に執行している。
- ・物品等の値上げが続いていることから、必要な物品の購入に支障が無いよう、注意

しながら購入を行っていた。

- ・各階廊下の床の汚れが広範囲にみられることから、教育委員会と連携しながら洗浄等を実施されたい。

**加須東中学校** 生徒数 387 人（学級数 10 学級+特別支援学級数 4 学級）

（1）学校概要等

- ・生徒数は 387 人で、1 学年は 4 学級、それ以外は 3 学級となっている。

（2）長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は 39 人（1 年 10 人、2 年 14 人、3 年 15 人）となっている。  
週 1 回の教育相談委員会と生徒指導委員会の実施等による情報共有のほか、不登校だけではなく、病気欠席やその他(家庭の事情)の理由により長期欠席となっている生徒も多く、その数を減少させるために校内で重点を置いて取り組んでいる。
- ・いじめ認知件数は 7 件となっているが、全て 3 ヶ月で解決、解消をしているとのことであった。  
全校一斉による人権教育の実施（学年で内容を変えている）のほか、家庭との連携を密にするとともに、デジタルで記録を残し、職員間の情報の共有を図っている。

（3）学力の向上対策等について

- ・学力を伸ばした 2 年生の数学での取り組みを校内で紹介し、県や東部教育事務所が作成したワークシートを活用している。
- ・授業における東中スタイルを明確にして、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。
- ・家庭学習の充実や、ICT を活用するなどして、基礎学力の定着を図っていくことが必要となっているとのことであった。

（4）GIGA スクールの運用状況について

- ・どの学級でも週 3 日以上は授業でタブレット端末を利用している。特に、数学、英語、総合での利用が多くなっている。
- ・「生徒用端末の活用ルール」を作成して、年度当初生徒に周知を行っている。
- ・授業での活用のほか、生徒の遅刻欠席の連絡や各種アンケート等でも活用することで、集計等を効率的に実施することができている。
- ・タブレット端末の故障は 10 台であった。  
使用開始から 4 年目になるので、故障も増えてくるとおられるとのことであった。

(5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長2人、学校応援団43人となっている。
- ・学校応援団の協力により、昨年度は重機を用いて、校庭の切株除去を行い、今年度は、夏休みにテニスコート回りの側溝蓋を全て外して清掃を行うことができた。教職員だけでは対応できない事にも協力を頂けていることで、教職員の負担軽減につながっているとのことであった。

(6) 災害時の対応等について

- ・通常の避難訓練の実施のほか、弾道ミサイルの対応に関する防災集会を実施することで、災害に対する生徒の意識を高めることができている。
- ・酷暑対策の一環として、7月から9月末までは体操着での登下校及び学校生活を可としている。

(7) 予算執行状況について

- ・配当予算については計画的に執行している。
- ・物品の値上げに伴い、可能な範囲でまとめ買いをすることで単価を下げるようにするとともに、購入数等の精査を行っている。

**加須平成中学校** 生徒数331人（学級数9学級+特別支援学級数3学級）

(1) 学校概要等

- ・生徒数は331人で、全学年3学級となっている。

(2) 長期欠席及びいじめ認知件数について

- ・長期欠席者は38人（1年7人、2年11人、3年20人）となっている。長期欠席生徒の解消を重点課題として捉え、全教職員で取り組んでいる。また、教育相談委員会を核として、長期欠席生徒への具体的、効果的な方針を話し合い、組織的に対応を行っている。
- ・いじめ認知件数は3件となっているが、全教職員による「いじめ防止基本方針」を確認するとともに、教職員間の情報共有、行動連携による早期発見、早期対応、早期解消を図っている。

(3) 学力の向上対策等について

- ・全職員による学力調査結果の分析と対策等について話し合い、学級経営や生活指導、保健指導の面からも学力向上のための対策を実施していた。
- ・まとめと振り返りの重要性について、東部教育事務所や教育委員会からの指導を受け、教科会を開いて対策し、速やかに改善されていた。

- ・家庭教育の在り方について、見届けの困難さ等について協議を行っていくことが課題となっているとのことであった。

#### (4) GIGAスクールの運用状況について

- ・教職員の全体研修を行い、授業での活用例を多数の教員が発表することで、活用法の共有を行っていた。
- ・授業では情報の収集だけでなく、課題の作成及び提出のほか、教師や友人との意見交換などに活用されていた。
- ・毎日持ち帰りを実施し、家庭学習での活用も広がってきている。
- ・研究グループを作り、学習支援ソフト「ミライシード」の教材開発を行ったところ、その教材がベネッセの「ミライシードアワード」審査員特別賞を受賞したとのことであった。
- ・タブレット端末の故障は34台であったが、関係機関と協力をして速やかに対応を行っていた。  
端末故障数が市内でも多いと思うが、活用をよくしている結果であるという見方もできるとのことであった。

#### (5) 地域との連携について

- ・ふれあい推進長3人、学校応援団40人となっている。
- ・学校応援団の協力により、環境整備（除草作業、剪定作業）のほか、部活動の指導や学習の補助を実施している。
- ・部活動指導員の増員が課題となっているとのことであった。

#### (6) 災害時の対応等について

- ・避難訓練等の防災教育の推進によって、生徒の防災意識を向上させることができている。
- ・加須市中学生防災ボランティア研修会に2年生4名が参加したとのことであった。
- ・熱中症警戒アラート発令時は、空調施設のある室内での活動のみに限定をしている。
- ・酷暑の際には、体操着に着替えるなど柔軟に対応を行っていた。

#### (7) 予算執行状況について

- ・配当予算については計画的に執行している。
- ・開校から28年目となり、施設や備品に老朽化や劣化が見られるため、修繕が必要となるものが増えてきているとのことであった。